

# 在宅自己注射指導管理料の主な対象薬剤、注射頻度及び効果・効能等

中医協 総-3-1参考2  
30 . 5 . 23

※「分類(案)」は、Ⅰ「発作時に緊急投与が必要な薬剤」、Ⅱ「補充療法等で頻回投与が必要な薬剤」、Ⅲ「Ⅰ、Ⅱ以外の薬剤」の意味。

一般名	製品名(例)	注射頻度	効能又は効果(抜粋)	在宅自己注射への追加時期	分類(案)※
インスリン製剤	ノボラピッド50ミックス注 フレックスペン	1~2回/日	インスリン療法が適応となる糖尿病	昭和63年	Ⅱ
	トレシーバ注フレックスタッチ	1回/日			
性腺刺激ホルモン製剤	フォリスチム注300IUカートリッジ	1回/日	視床下部一下垂体機能障害に伴う無排卵及び希発排卵における排卵誘発	平成10年	Ⅱ
ヒト成長ホルモン剤	ノルデイトロピンS注10mg	6~7回/週	骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症	昭和63年	Ⅱ
遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤	ノボセブンHI静注用1mgシリンジ	出血時、止血が得られるまで2~3時間毎	血液凝固第Ⅷ因子又は第Ⅸ因子に対するインヒビターを保有する先天性血友病患者の出血抑制	平成14年	Ⅰ、Ⅱ
遺伝子組換え型血液凝固第Ⅷ因子製剤	アドベイト静注用250	症状に応じて適宜	血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者に対し、血漿中の血液凝固第Ⅷ因子を補い、その出血傾向を抑制する	平成16年	Ⅰ、Ⅱ
遺伝子組換え型血液凝固第Ⅸ因子製剤	ベネフィクス静注用500	症状に応じて適宜	血友病B(先天性血液凝固第Ⅸ因子欠乏症)患者における出血傾向の抑制	平成21年	Ⅰ、Ⅱ
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅹ因子加活性化第Ⅶ因子製剤	バイクロット配合静注用	症状に応じて適宜	血液凝固第Ⅷ因子又は第Ⅸ因子に対するインヒビターを保有する患者の出血抑制	平成26年	Ⅰ、Ⅱ
乾燥人血液凝固第Ⅷ因子製剤	クロスエイトMC静注用2000単位	症状に応じて適宜	血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者に対し、血漿中の血液凝固第Ⅷ因子を補い、その出血傾向を抑制する	平成6年	Ⅰ、Ⅱ
乾燥人血液凝固第Ⅸ因子製剤	クリスマシンM静注用400単位	症状に応じて適宜	血液凝固第Ⅸ因子欠乏患者の出血傾向を抑制する	昭和58年	Ⅰ、Ⅱ
顆粒球コロニー形成刺激因子製剤	ノイアップ注25	1回/日	先天性・特発性好中球減少症	平成24年	Ⅱ
性腺刺激ホルモン放出ホルモン剤	ヒポクライン注射液1.2	12回/日 (自動間歇注射ポンプを使用)	視床下部性腺機能低下症	平成2年	Ⅱ
ソマトスタチンアナログ	サンドスタチン皮下注用 50μg	2~3回/日	消化管ホルモン産生腫瘍に伴う諸症状の改善	平成6年	Ⅱ
ゴナドトロピン放出ホルモン誘導体	(現時点では該当なし)	—	—	平成6年	Ⅱ

グルカゴン製剤	グルカゴンGノボ注射用1mg	頓用	低血糖時の救急処置	平成6年	I
グルカゴン様ペプチド-1受容体アゴニスト	ビクトーザ皮下注18mg	1回/日	2型糖尿病	平成22年	II
ヒトソマトメジンC製剤	ジェトロピンゴークイック注用12mg	2~4回/週(筋注) 6~7回/週(皮下注)	骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症	平成8年	II
インターフェロンアルファ製剤	イントロンA注射用300	3回又は6回/週	C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善	平成18年	II
インターフェロンベータ製剤	ベタフェロン皮下注用960万国際単位	隔日投与	多発性硬化症の再発予防及び進行抑制	平成14年	II
エタネルセプト製剤	エンブレル皮下注25mgシリンジ0.5mL	1回又は2回/週	既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を)	平成18年	III
ペグビソマント製剤	ソマバート皮下注用10mg	1回/日	先端巨大症(外科的処置、他剤による治療で効果が不十分な場合又は施行が困難な場合)におけるIGF-I(ソマトメジン-C)分泌過剰状態および諸症状の改善	平成19年	II
スマトリプタン製剤	イミグランキット皮下注3mg	頓用	片頭痛、群発頭痛	平成20年	I
グリチルリチン酸モノアンモニウム・グリシン・L-システイン塩酸塩配合剤	強カネオミノファーゲンシー静注20mL	1回/日	慢性肝疾患における肝機能異常の改善	平成20年	II
アダリムマブ製剤	ヒュミラ皮下注20mgシリンジ0.4mL	1回/2週	既存治療で効果不十分な多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎	平成20年	III
テリパラチド製剤	フォルテオ皮下注キット600μg	1回/日	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	平成22年	II
アドレナリン製剤	エピペン注射液0.15mg	頓用	蜂毒、食物及び薬物等に起因するアナフィラキシー反応に対する補助治療(アナフィラキシーの既往のある人またはアナフィラキシーを発現する危険性の高い人に限る)	平成23年	I
ヘパリンカルシウム製剤	ヘパリンカルシウム皮下注5千単位/0.2mLシリンジ	2回/日	血栓塞栓症(静脈血栓症、心筋梗塞症、肺塞栓症、脳塞栓症、四肢動脈血栓塞栓症、手術中・術後の血栓塞栓症等)の治療及び予防	平成23年	III
アポモルヒネ塩酸塩製剤	アポカイン皮下注30mg	5回/日まで	パーキンソン病におけるオフ症状の改善(レボドパ含有製剤の頻回投与及び他の抗パーキンソン病薬の増量等を行っても十分に効果が得られない場合)	平成24年	III

セルトリズマブペゴル製剤	シムジア皮下注200mg シリンジ	1回/2週 (症状安定後は1回/4週)	関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)	平成25年	Ⅲ
トシリズマブ製剤	アクテムラ皮下注162mgシリンジ	1~2回/2週	既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)	平成25年	Ⅲ
メトレプレチン製剤	メトレプレチン皮下注用11.25mg	1回/日	脂肪萎縮症	平成25年	Ⅲ
アバタセプト製剤	オレンシア皮下注125mgシリンジ1mL	1回/週	関節リウマチ(既存治療で効果不十分な場合に限る)	平成25年	Ⅲ
pH4処理酸性人免疫グロブリン (皮下注射)製剤	ハイゼントラ20%皮下注1g/5mL	週1回	無又は低ガンマグロブリン血症	平成26年	Ⅱ
アスホターゼアルファ製剤	ストレンジック皮下注12mg/0.3mL	3回又は6回/週	低ホスファターゼ症	平成27年	Ⅱ
グラチラマー酢酸塩製剤	コパキソン皮下注20mgシリンジ	1日1回	多発性硬化症の再発予防	平成27年	Ⅱ
セクキヌマブ製剤	コセンティクス皮下注150mgペン	1回/週(4週目まで) 1回/4週(5週目以降)	既存治療で効果不十分な尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬	平成28年	Ⅲ
エボロクマブ製剤	レパーサ皮下注140mgシリンジ	1回/2週又は4週	家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症 ただし、心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA還元酵素阻害剤で効果不十分な場合に限る。	平成29年	Ⅲ
プロダルマブ製剤	ルミセフ皮下注210mgシリンジ	1回/週(2週目まで) 1回/2週(3週目以降)	既存治療で効果不十分な尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症	平成29年	Ⅲ
アリロクマブ製剤	プラルエント皮下注75mgシリンジ	1回/2週	家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症 ただし、心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA還元酵素阻害剤で効果不十分な場合に限る。	平成29年	Ⅲ
ベリムマブ製剤	ベンリスタ皮下注200mgオートインジェクター	1回/週	既存治療で効果不十分な全身性エリテマトーデス	平成29年	Ⅲ
イキセキズマブ製剤	トルツ皮下注80mgオートインジェクター	1回/2週(12週後まで) 1回/4週(13週目以降)	既存治療で効果不十分な尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症	平成29年	Ⅲ
ゴリムマブ製剤	シンポニー皮下注50mgシリンジ	1回/4週	既存治療で効果不十分な関節リウマチ	平成30年	Ⅲ
エミシズマブ製剤	ヘムライブラ皮下注150mg	1回/週	血液凝固第Ⅷ因子に対するインヒビターを保有する先天性血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者における出血傾向の抑制	平成30年	Ⅲ